

庄内町立図書館だより

よめっちゃん



2015.9.29(No.6)

お待たせ
しました！

10冊貸出
します！

10/17(土)～

11/8(日)

読書週間
特別貸出



図書館カレンダー

★開館時間

平日 午前9:00～午後7:00
(11月からは平日午後6:00閉館)
土日 午前9:00～午後5:00

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

⇒休館日

おはなしらんどポップコーンの「おはなし会」
10/21(水)10時～/11/18(水)10時～
町立図書館ホールで開催！申込み不要です。
どなたでもお気軽にご参加ください！

内藤秀因水彩画記念館

記念館ではただいま「ちっこし昔(むかし)の子どもたち」と題し、樋渡浩さんの水彩画25点を展示しております。「余目の方言」という独自の切り口から、昭和の余目にくらしていた子どもたちを描く樋渡さんの絵画は、見る人の心を温かくし、余目の生活文化、言語文化について考える機会を提供してくれます。

ところで、図書館内でも樋渡さんの作品をご覧いただけるのですが皆様ご存じでしたか。それがこの彫刻(画像)。

昭和30年代から制作されていた「立つ」というシリーズのうちの1点です。余目の小中学校の美術教師だった樋渡さんは、もともと彫刻の分野で活動していました。館内にあるのは昭和54年に制作されたもので、現図書館と同じ年になります。やわらかなタッチの水彩画と、力強く写実的な彫刻。樋渡さんの異なる2つの作品世界をご堪能ください。

館内のどこにあるでしょう？探してみてね。



樋渡浩「立つ」(1979)

～職員をつぶやき～

シルバーウィークもあっという間に終わり(石川旅行楽しかったです)、気付けばすっかり秋ですね。図書館で秋といえば、もちろん読書の秋！



10/17～11/8は読書週間特別貸出。おひとり10冊まで貸し出しいたします！この機会に気になる本をまとめ借りしてください！「2週間ですげ読みね～」という方は普段通りの5冊でもオッケーです。

期限内に読み切れない場合は返却期限の延長もできますので、お電話かカウンター職員までお問い合わせください♪

スマートフォンの方はコチラ↓



ようやく時代に追いついた！？庄内町立図書館のQRコードです。ご利用ください。

携帯電話の方はコチラ↓



お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館
43-3039
分館 56-3308

スポーツの秋

10/12（月）は体育の日。図書館としては「読書の秋特集」と行きたいところですが、次回に譲ることにして、今回は「普段は読書ばかりの私だけ、たまには運動してみるのもいいかな……」と思わせてくれる本を紹介します。スポーツ選手が書いた本や、スポーツをする人のための本など。お気に入りを見つけてみてください。

頂点への道

（錦織 圭・秋山英宏／文藝春秋）

子どもの頃の文集中「夢は世界チャンピオン」になること、そんな大きな夢を着々とまっすぐに進んでいるテニスの錦織選手。コートでエネルギーにかつ華麗にプレーする姿は、とてもカッコいい。

この本には、2010年からのブログやジュニア時代から彼を取材してきた秋山氏の解説とともに、心と成長の軌跡が見える。彼のテニスにかけける情熱、厳しい負傷を乗り越えた苦悩や思いが、ひしひしと伝わり、世界のトップアスリートたちとの壮絶な試合やチャンコーチとの出会い、とてもユーモアのあるかわいい一面もかいまみえ、楽しい。



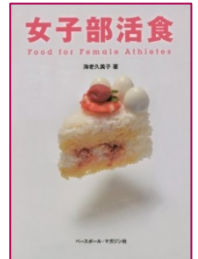
女子部活食

（海老 久美子／ベースボール・マガジン社）



成長期にスポーツする上で身体づくりは非常に重要です。著者自身、学生時代は貧血と成長痛に悩まされたそう…。

栄養素を効率よく摂取するポイント、正しい間食・水分補給のやり方、また女の子のための我慢なくていい甘いものレシピも豊富に掲載しています。学生だけでなく、運動を日課とする全ての女性におすすめです。



相撲のひみつ

（新田一郎／朝日出版社）

天皇・貴族に、神仏に、そして広く大衆に「見せる」ために形づくられてきた相撲。見せるための様々ななしかけ、国技と呼ばれる所以とは？

横綱という地位・土俵入りは一度限りの特別企画から始まった！江戸の名物力士たちのラインナップ、土俵ができてからの技の変遷、四股名やマワシの歴史、力士を支える職人の仕事などなど…

最近盛り上がりを見せている大相撲につながる歴史・裏側を覗いてみま

せんか。イラストが入ってわかりやすく、初心者でもサクサクと見やすい一冊です。



サクリフェイス

（近藤史恵／新潮社）

スポーツ小説というところのような話を想像するだろうか。私の勝手なイメージでは「学生、爽やか、ハッピーエンド」だが、この小説はそのどれにも当てはまらない。最近人気のロードレースを題材にした小説だが、スポーツの裏側は結構ドロドロしているのでは？と想像させるには十分なストーリーだ。

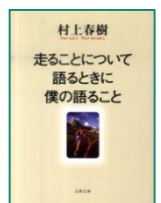
2008年の本屋大賞2位なので、読まれた方も多いのでは。続編「エデン」短編集「サヴァイヴ」も併せて読みたい。



走ることに語るときに

僕の語ること

（村上春樹／文藝春秋）



村上春樹は作家であり、ランナーでもある。

本書では走ること、書くこと、生きること（著者にとってこれらは密接な関係にある）についての著者の考えや、作家となった経緯が語られている。ランナーやもの書きだけでなく、何か継続していることがあるひとならば、共感し、示唆を受ける部分があるはず。

村上春樹のエッセイには複雑なことがやさしく、過不足なく書きあらわされている。スポーツは嫌いだけれど、美しい文章を味わい考えるのは好き、という方にもおすすめです。



こちらで紹介した本はすべて庄内町立図書館にございます。貸し出し中の場合は予約もできますので、お気軽にお問合せください◎